

菱の実



菱実会（佐賀大学理工学部同窓会）会報 第24号

発行日 2022年8月1日

発行菱実会

佐賀市本庄町1 佐賀大学内

TEL 0952-23-1253

FAX 0952-25-5700

E-mail dousoukai@sadai.jp

ホームページ <http://sadai.jp/alumni/>

編集代表者 小玉純士

目次

菱実会設立25周年事業に向けて	穂屋下 茂	1	・高周波半導体デバイスの高性能化を目指して	電気電子工学部門 大石 敏之	9	
第2回理工学部同窓会長賞の表彰		2	・建築設計の実践と研究教育による相乗的な建築創造を目指して	都市工学部門 平瀬 有人	10	
第7回佐賀大学同窓会長賞の表彰		2	実践的な教育研究も可能にした理工学部4号館～ラーニング・	ループの教育環境を目指して～	三島 伸雄	10
第6回菱実会賞の表彰		3	2021年度理工学部キャリアデザインセミナー		11	
第18回理工学部長賞の表彰		3	セミナーに参加してあらためて就職活動の意義を実感	田中 稲穂	11	
2021年度菱実会・理工学部広報賞		4	理工学部と菱実会との意見交換会	中西 美香	12	
佐賀大学海洋エネルギー研究所として新しいステージを目指して	池上 康之	4	佐賀大学ホームカミングデー		12	
2021年度佐賀大学学位授与について		5	私たち頑張っています (Vol 8)			
2022年度佐賀大学入学生について		5	・学び続けています…	中西 美香	13	
理工学部教員一覧 (関係センター含む)		6	・学業・研究に励み、探求心を育む	徳田 隼人	13	
Webサイト「理工学部で活躍するリケジョたち」の紹介	山西 博幸	6	2022年度菱実会総会と第1回菱実会クラス代表会議を開催		14	
理工学部 (理工学研究科) の特徴ある研究の事例紹介 (第3回)			第12期菱実会役員		14	
・曲面の変形と整数	数理部門 市川 尚志	7	菱実会役員の自己紹介 (Vol 4)			
・データサイエンスが示すシステムの有用性	情報部門 中山 功一	7	・菱実会について思うこと	樋口 幸弘	15	
・ラマン分光を基盤とした新しい分光学的手法の開発と応用	化学部門 海野 雅司	8	・菱実会の今後の発展に向けて	大谷 誠	15	
・高エネルギー物理学の研究	物理学部門 房安 貴弘	8	菱実会の動き		16	
・潮流発電用の集流装置付きタービンの研究	機械工学部門 木上 洋一	9	お知らせ			
			・2022年度菱実会賞の募集		16	
			・理工学部キャリアデザインセミナー講師及び会報等への寄稿		16	

菱実会設立25周年事業に向けて

菱実会会長 穂屋下 茂

日頃の同窓会活動へのご厚情に対しまして改めて御礼申し上げます。大学構内の新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動制限レベルは下がり、授業体制等はコロナ禍前に戻ってきているようです。これからは、ウィズコロナ社会での活動の在り方を探りながら、同窓会を推進していかざるを得ないでしょう。

理工学部は、1966年の文理学部改組に伴い、経済学部とともに理工学部が設置されて56周年を迎えました。菱実会（理工学部同窓会）は、1999年8月に楠葉同窓会から分離独立しましたので、2024年に25周年を迎えます。そこで、2024年9月の菱実会総会・懇親会で設立25周年事業のセレモニーを開催する計画を進めております。そのために前年度の菱実会役員の方々には残留をお願いしました（14頁参照）。2022年5月には菱実会設立25周年事業準備委員会を発足し、記念誌も発行する方向で検討しています。事業の詳細は、菱実会Webサイトや会報等で追ってお知らせします。

また、菱実会では同窓生ネットワークを強化するために、2022年度より学部生部会及び卒業生部会を発足して、少しでも同窓生同士の繋がりを持つ機会を増やしていく企画を進めております。これは、同窓会は大学の強力なステークホルダーとして、大学の最新情報を同窓生に発信したり、逆に様々の分野で活躍している同窓生から大学の使命やビジョンの実現に向けた提言を集めたり、さらには就職やキャリア教育などの支援活動を促したりする必要性が高まってきている時代背景を受けての同窓会活動の一環でもあります。

2022年9月17日(土)には、「第1回菱実会クラス代表会議」を、菱実会総会に引き続き開催します。奮ってご参加下さい。詳しくは、本会報の14頁をご覧ください。

最後に同窓会会費納入のお願いです。同窓会は皆様の同窓会会費で成り立っております。ご協力・ご支援のほどよろしくお願ひいたします。年会費又は終身会費の納入手続きについては、菱実会Webサイト (<http://sadai.jp/alumni/ryoujitsukai/>) の「住所変更・会費納入」をご覧ください。

第2回理工学部同窓会長賞の表彰

第2回（2021年度）理工学部同窓会長賞の表彰式が、2022（R4）年3月17日（木）19：00～20：00に菱の実会館の多目的室において、菱実会役員会に引き続き開催されました。表彰式では会長から一人ずつ表彰状と副賞が手渡され、出席者全員で記念撮影をした後、約40分間の懇談会を行いました。懇談会では、主催者代表の菱実会会長の挨拶、理工学部長の祝辞、各受賞者及び同窓会役員の自己紹介、さらに自由懇談と続き、時間通りに式を閉会しました。なお、集合写真の時以外は全員マスクをして、なるべく三密を避けて行いました。

理工学部同長賞は、学業の他、学術研究活動、課外活動、社会活動等において総合的に優秀であると認められた学生（4年生）を表彰する制度で、第2回目となる2021年度は、理工学部長に各部門（旧学科）から候補者を1名ずつ、計7名の方々（2018年度入学）を推薦していただきました。2021年度の受賞者は次の通りです。（敬称略）

溝上 太一（数理・H30入）
江口 瑠南（知能・H30入）
原田 悠介（機物・H30入）
楠木 捷斗（物理・H30入）
LEE JIN YIEN（機シ・H30入）
徳田 隼人（電電・H30入）
高井 佑豪（都市・H30入）

*なお、推薦概要及び受賞者の喜びの声は菱実会Webサイトに掲載しております。



2021年度理工学部同窓会長賞受賞者と表彰式参加者全員で

第7回佐賀大学同窓会長賞の表彰

佐賀大学同窓会では、社会活動、教育、研究等で顕著な社会貢献があったと認められる個人又は団体に「佐賀大学同窓会長賞」を授与しています。2021年度は佐賀大学6学部のうち、5つの学部から推薦がありました。推薦があった学部からの推薦書を佐賀大学同窓会役員会で審査した結果、5名の方々に佐賀大学同窓会長賞を授与することになりました。

なお、2022（R4）年3月23日の佐賀大学学位記授与式が、新型コロナウイルス感染拡大の観点から、規模を縮小して執り行われましたので、式典の中で同窓会長から直接、受賞者に授与することはできませんでした。表彰状と記念品は受賞者の方々の自宅に郵送しました。理工学部からの受賞者と推薦理由は次の通りです。（敬称略）

受賞者名：岡崎 政人（知能・H30入）

推薦理由：卒業研究として取り組んだディープラーニング技術や画像処理技術に関する学術研究活動において、査読付き論文1本（第1著者）、学会発表1件（第1著者、本人発表）など、抜群の研究成果を上げている。これらの素晴らしい研究成果は、高いソフトウェア開発力と自ら考え迅速に挑む実行力を発揮したものである。勉学にも熱心に取り組んでおり、成績は非常に優秀である。またスキー部で副部長を務めるなど、まわりからの信頼も厚く、コミュニケーション能力にも長けている。

第6回菱実会賞の表彰

菱実会賞は、佐賀大学理工学部に入學及び卒業した学生で、かつ同窓会会費を納入した正会員で、社会活動、課外活動、学術研究活動等において、成果や評価が顕著であると認められた者を表彰するための菱実会（理工学部同窓会）独自の取り組みです。2021年度から、学部生部門（理工学部の在学学生）の他、大学院生部門、社会人部門に広げて、2021年5月1日(土)～10月31日(日)に募集しましたが、大学院生部門、社会人部門からの申請はありませんでした。学部生部門からは2件の申請があり、2件とも採択されました。

第6回となる菱実会賞の表彰式は、2021年12月22日(水)、菱実会役員会に引き続いて開催されました。受賞者および受賞題目は次の通りです。（敬称略）

受賞者：ヨシ イズディン アズハル（機物・H29入）
 題目：留学生と佐賀の架け橋のための国際交流活動の企画・運営

受賞者：富安 勇佑（物理・H31入）
 題目：全日本武道空手道選手権大会（フルコンタクト）



第18回理工学部長賞の表彰

2022（R4）年4月5日(火)16時から、理工学部6号館2階の多目的セミナー室において、第18回理工学部学生表彰（理工学部長賞）の表彰式が開催されました。また、新型コロナ禍のため、三密を避け、集合記念写真撮影の時以外は全員マスク着用で遂行されました。なお、学生表彰者は、2021年度に2年次及び3年次の学生で成績が優秀であると認められた24名の学生、各学年各コースから1名ずつ選抜されております。

表彰式において、菱実会（理工学部同窓会）からは副賞として図書カードを贈りました。表彰のあと理工学部長挨拶、菱実会会長挨拶と続き、出席者全員で記念撮影を行った後、表彰された学生との懇談会がありました。

懇談会は、出席者全員の簡単な自己紹介、末廣誠也リーダーによるSTEPsの紹介、大学教員についてどう思っているかの話題で盛り上がりました。



第18回理工学部学生受賞者（敬称略）

コース名	新4年（R2入）	新3年（R3入）
数理サイエンスコース	鴛海 広人	村田 良明
知能情報システム工学コース	須賀 友基	岸本 蒼唯
情報ネットワーク工学コース	江口龍之介	江下 駿人
生命化学コース	神代 健人	津曲 遼
応用化学コース	松田 真希	黒岩 美鈴
物理学コース	古賀安友美	大嶋 悠人
機械エネルギー工学コース	二串 綾修	小久保芽衣
メカニカルデザインコース	香月 勇人	福山 顕光
電気エネルギー工学コース	末廣 誠也	山下 彰太
電子デバイス工学コース	江田龍宇一	松尾 俊輝
都市基盤工学コース	牟田 勇己	田平龍之介
建築環境デザインコース	日高 央季	竹澤 紀子

2021年度菱実会・理工学部広報賞

第5回（2021年度）菱実会・理工学部広報賞として、菱実会より64名の学生に対して記念品（クオカード）が贈呈されました。菱実会・理工学部広報賞一覧（敬称略）を示します。

記事日付	記 事 名	学生氏名	部門（指導教員）
2021/3/31	優秀口頭発表賞を受賞	赤木 芳菜子・他1名	化学（坂口先生）
2021/4/2	サガテレビ：春フェス特設サイトにて“みんなの桜フォトマップ”をリリース	梶原 薪・他1名	情報（中山先生）
	化学工学会第86年会上において最優秀学生賞を受賞	庄山 季子	化学（森貞先生）
2021/5/19	公益財団法人加藤科学振興会の令和3年度研究奨励金に採択	シャイマ リンダ サリ	化学（畠永先生）
2021/5/28	教育支援センター「くすの実」で大学院生らが理科実験教室を実施	重富 敬太・他2名	化学（長田先生）
	令和2年度土木学会西部支部研究発表会で優秀講演賞を受賞	阪本 こなん	都市（押川先生）
2021/6/16	佐賀大学生のためのモバイルオーダー&デリバリーサービス実証実験「佐大ToGo」を開始	浅川 泰輝	情報（中山先生）
2021/6/23	2021年度日本建築学会建築九州賞研究新人賞を受賞	山下 珠穂	都市（三島先生）
2021/6/29	教育支援センター「くすの実」で理科実験教室を実施（2）	野元 裕太・他2名	化学（長田先生）
2021/7/2	「ミニ四駆AI大会 in 第6回ゲームAI大会」にて理工学部のチームが1・2フィニッシュを達成	才所 翔太	情報（上田先生）
2021/7/14	国際セミナーでの総合司会を遂行	Shaimah Rinda Sari	化学（畠永先生）
2021/7/20	日本表面真空学会九州支部学術講演会で学生講演奨励賞を受賞	高谷 亮太	電電（教数先生）
2021/7/19	教育支援センター「くすの実」で理科実験教室を実施（3）	魚谷 高輝・他2名	情報（中山先生）
2021/7/21	第58回化学関連支部合同九州大会において優秀ポスター賞を受賞	熊本 聖葉・他1名	化学（森貞先生）
2021/8/12	大学院生が起業した佐賀大学発ベンチャーが「第7回佐賀さいこう企業表彰」を受賞	山城 佑太	情報（中山先生）
2021/8/24	2021年度九州分析化学奨励賞を受賞	河野 雅大	化学（高椋先生）
2021/8/26	化学関連支部合同九州大会高分子・繊維部門で若手研究者奨励賞を受賞	梶山 真太郎	化学（大石先生）
2021/10/4	教育支援センター「くすの実」で理科実験教室を実施（4）	魚谷 高輝・他2名	化学（長田先生）
2021/10/7	発表論文が国際会議でBest Paper Awardを受賞	Maodudul Hasan	電電（豊田先生）
2021/10/26	教育支援センター「くすの実」で理科実験教室を実施（5）	野元 裕太・他2名	化学（長田先生）
	精密工学会九州支部学生研究発表会においてベストプレゼンテーション賞と企業賞を受賞	堤 祐太郎	機械（長谷川先生）
2021/10/28	国際会議APT2021においてExcellent Poster Awardを受賞	庄山 季子	化学（森貞先生）
2021/11/4	建築環境デザインコースがウィーン工科大学等とオンライン国際セミナーを実施	西村 奏波・他8名	都市（三島先生）
2021/11/29	学生が代表を務める株式会社SA-GAが「佐賀大学発ベンチャー」称号の第4号を取得 学生が代表を務める株式会社NEXSが「佐賀大学発ベンチャー」称号の第3号を取得	森山 裕麿	情報（中山先生）
2021/12/2	理工学部の教員と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で理科実験教室を実施（6）	重富 敬太・他2名	化学（長田先生）
2021/12/22	ビジネスプランコンテスト「さがラボチャレンジカップ2021」で最優秀賞を受賞	梶原 薪	情報（中山先生）
	佐賀県「ガバメントクラウドファンディング型ふるさと納税：起業家支援プロジェクト」に採択	梶原 薪	情報（中山先生）
2022/1/11	IEEE APS Japan Student Encouragement Awardを受賞	齊藤 健人	電電（豊田先生）
2022/1/13	第21回九州・大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテストで九州経済産業局長賞を受賞	小嶋 恒	情報（中山先生）
2022/1/14	国際会議でBest Paper Awardを受賞	菅島 立樹	電電（坂口先生）
2022/1/26	優秀口頭発表賞を受賞	原口 椋多・他1名	化学（坂口先生）
2022/2/2	Best Presentation Award for Young Researchersを受賞	Muhamad Mustofa	電電（田中先生）
	国際建築研究賞でTop10に入賞	P. DUANGPUTTAN	都市（三島先生）
2022/2/4	第74回電気・情報関係学会九州支部連合大会において電子情報通信学会九州支部奨励賞を受賞	江口 大雅	情報（福田先生）
2022/2/8	映像情報メディア学会放送技術研究会で最優秀賞を受賞	江頭 祥太	電電（豊田先生）
	第74回電気・情報関係学会九州支部連合大会において連合大会講演奨励賞を受賞	梅田 祐孝・他1名	電電（豊田先生）
2022/2/28	中山功一准教授らによる論文が情報処理学会論文誌ジャーナル特選論文に選定	西ノ平 志子	情報（中山先生）
2022/3/11	優秀発表賞を受賞	宮副 航輔	情報（中山先生）

佐賀大学海洋エネルギー研究所として新しいステージを目指して

国立大学法人として新しい第4期中期目標計画が始まる2022（R4）年4月より、前身の『佐賀大学海洋エネルギー研究センター』は『佐賀大学海洋エネルギー研究所』に改称し、新しいステージを目指してスタートしました。

本研究所は、2010（H22）年度より、海洋エネルギーに関する我が国唯一の共同利用・共同研究拠点「海洋エネルギー創成と応用の先導的共同研究拠点」として、文部科学大臣の認定を受けております。この間、関連する国内外の研究機関・研究者との共同研究や研究集会を通じ、関連研究者コミュニティの研究基盤を提供し、新たな学術研究の展開を推進しています。また、国際エネルギー機関（IEA）や国際電気標準会議（IEC）等の海洋エネルギー関連部門に我が国を代表して参画するなど、国際的な役割を担っています。

こうした中、本研究所は共同利用・共同研究拠点として、第4期も認定を受けることとなりました。本研究所は、カーボンニュートラルの実現に向けて、再生可能エネルギーの一つである海洋エネルギーに対する国内外からの期待が一層高まる中、海洋エネルギーに関する我が国の中核的な研究施設としての本研究所の位置づけを明確化し、その学術的及び社会的な役割の強化を目的として、これまで取り組んできた実績の強化などを図ります。特に、海洋温度差発電に関する世界TOPレベルの高効率化に向けた研究や革新的な波力発電、潮流発電、洋上風力発電システムの基礎的、応用的、実証的研究の強化を始めとして、海洋エネルギーに関する総合的な研究開発と関連する技術要素の学際的な研究を推進し、その可視化を図りながら、佐賀大学全体の研究者や学外の研究者等の共同利用・共同研究の促進に資する取り組みを推進します。

来年は、元佐賀大学学長の上原春男先生が、佐賀大学で海洋温度差発電の研究を開始されて50年になります。上原先生の「海洋立国日本として、佐賀で育まれた海洋エネルギー技術で世界の環境エネルギー問題に貢献したい」というご意志をしっかりと継承し、さらに発展させていきたいと思っております。

同窓生の皆様方も、是非一度新しい研究所にお越しください。お待ちしております。

（佐賀大学海洋エネルギー研究所所長 池上 康之）



海洋エネルギー研究所伊万里サテライト

2021年度佐賀大学学位授与について

2022（R4）年3月23日(水)に、佐賀大学学位記授与式が開催されました。新型コロナウイルス感染拡大を回避するため、会場へ入場を卒業生のみ制限して行われました。また、学科毎の祝賀会・謝恩会は中止になりました。なお、2021年度の理工学部関係の卒業生・修了生は次の通りでした。今後の活躍を願っております。

理工学部 卒業	
数理科学科	24名
物理科学科	44名
知能情報システム学科	55名
機能物質化学科	76名
機械システム工学科	96名
電気電子工学科	93名
都市工学科	96名
計	484名

理工関係の研究科 修了	
【先進健康科学研究科修士課程】	
先進健康科学専攻	50名
【理工研究科修士課程】	
理工学専攻	156名
【工学系研究科博士後期課程】	
システム創成科学専攻	11名
計	217名

全学の学部 卒業	
文化教育学部	2名
教育学部	128名
芸術地域デザイン学部	112名
経済学部	263名
医学部	161名
理工学部	484名
農学部	164名
計	1,314名

全学の研究科 卒業	
学校教育学研究科（専門職学位課程）	20名
地域デザイン研究科（修士課程）	17名
医学系研究科（修士課程）	6名
医学系研究科（博士課程）	17名
先進健康科学研究科（修士課程）	50名
理工研究科（修士課程）	156名
工学系研究科（博士後期課程）	11名
農学研究科（修士課程）	25名
計	302名

2022年度佐賀大学入学生について

2022（R4）年度の佐賀大学の入学式は、2022年4月5日(火)に開催されました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、三密を守って当事者のみしか式場には入れませんでした。2022年度の入学生数は、学部1,330名、大学院310名で、総数は1,640名でした。詳細は次の通りです。

全学の学部	
教育学部	124名
芸術地域デザイン学部	114名
経済学部	262名
医学部	162名
理工学部	495名
農学部	146名
計	1,303名

全学の学部（編入学）	
芸術地域デザイン学部	5名
理工学部	15名
農学部	7名
計	27名

全学の研究科（修士課程・博士前期課程）	
学校教育学研究科	20名
地域デザイン研究科	17名
先進健康科学研究科	48名
理工学研究科	173名
農学研究科	34名
計	292名

全学の研究科（博士課程・博士後期課程）	
医学系研究科博士課程	11名
工学系研究科博士後期課程	7名
計	18名



佐賀大学正門（左：教養教育2号館 右：美術館）



学生広場と教養教育大講義室

理工学部（理工学研究科）の特徴ある研究の事例紹介（第3回）

数理部門（旧数理科学科）

■曲面の変形と整数

昨年、一昨年と数理部門では部門長が寄稿していますので、研究と呼べる程のものではありませんが、私が興味を持って勉強してきたことを記します。私は0, ± 1 , ± 2 , …から成る整数の性質を基とする整数論と呼ばれる数学の分野を勉強してきましたが、一方では理論物理学で統一理論の候補の一つと言われる弦理論の普遍性（universality）にも強い興味を持っていました。この理論では、図のようにいくつか穴を持つ浮き輪で表される曲面どうしを識別し、その形が変わる様子を記述することが重要になります。20世紀前半のドイツの数学者タイヒミュラー（1913～1943）は、理工学系の多くの大学生が学ぶ複素関数論を基に曲面の変形を記述する理論を提唱しましたが、ナチズムを信奉して独ソ戦に従軍し、1943年のドニエプル川の戦いで戦死しました。彼が命を捧げることになったナチス・ドイツはその後崩壊しましたが、彼の理論は数学界に大きな実りをもたらすことになります。



穴が3つの曲面の例
(https://en.wikipedia.org/wiki/User:Oleg_Alexandrov/Picturesより転載)

私はタイヒミュラーの理論を整数の言葉で理解しようと試み、第二次大戦後に大きく発展した代数幾何学を用いて、整数を係数とする級数で曲面の変形の様子を記述する方法を考えました。この方法を用いると、弦理論で重要な弦測度と呼ばれる関数を標準化し、その明示的な公式を与えることができます。また比較的最近のことですが、「整数環上の普遍マンフォード曲線」というタイトルの論文を見つけ、私が大好きな二つの言葉「整数」と「普遍」が入っているので、とても興味を持ちました。自分のやり方でこのタイトルが表す対象を実現しようと考えた結果、今まで変形のタイプに応じてバラバラに与えていた上記の整数係数の級数を互いに繋げる（解析接続する）ことができました。今後はこの考え方をさらに発展させて、整数論と理論物理学の関わりについて理解を深めていきたいと思っています。（文責：市川 尚志）

情報部門（旧知能情報システム学科）

■データサイエンスが示すシステムの有用性

2023年度から、理工学部にデータサイエンスコースが新設されます。このコースの学生は、広く通用するデータサイエンティストを目指し、データの分析や統計処理などの知識やスキルを学びます。4年生では、主に現在の情報部門や数理部門の研究室で、卒業研究に取り組みます。多種多様な情報システムが生活のあらゆるところで用いられる現在において、そのシステムが本当に有効なのか、もっと良い使い方はないのかなどを明らかにするためには、データサイエンスの知見も重要になります。

中山研究室では、人間に役立つ情報システムを提案・開発したときには、倫理審査委員会の承認を得た上で、システムを使ってもらう被験者実験をします。学生が開発した記憶想起支援システム「FaceCalendar」は、カメラ画像によるAI顔認証システムで目の前にいる人物の顔を認証して、その人物と以前会ったときのユーザ（FaceCalendar使用者）のスケジュールを表示します。ユーザは「テニス大会：総合運動場」「国際会議：パリ」などのスケジュールから、その人物と以前会ったときに自分がどこで何をしていたか分かります。これらの情報から、ユーザがその人物と以前会ったことすら覚えていなくても、会話をしやすくなると思われました。

仮説の妥当性を示すために、被験者がシステムを使う／使わないなどの条件で実験を行い、統計的仮説検定を経て、条件間で有意な差異（偶然ではない違い）があることを確認します。実際に「その人物の名刺情報を表示する」条件よりも、「スケジュールを表示する」条件の方が、その人物と会話した内容を、より想起しやすいことを示しました。

このように、データサイエンスと情報システムの開発には密接な関係があります。「役に立つ」とか「使いやすい」ということが根拠のあるデータで示された情報システムを、データサイエンスコースの学生と一緒に目指します。（文責：中山 功一）

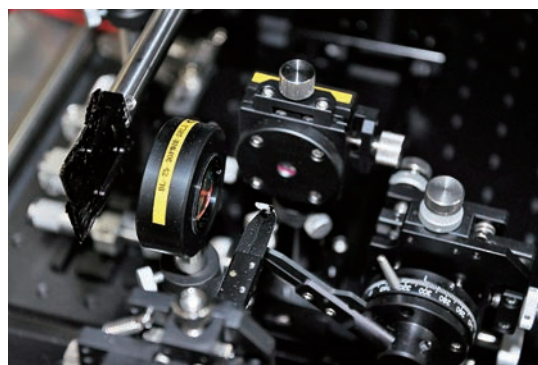


化学部門（旧機能物質化学科）

■ラマン分光を基盤とした新しい分光学的手法の開発と応用

海野-藤澤研究室では、海野と藤澤准教授が共同して研究室を運営し、振動分光の一つであるラマン分光を中心とした分子分光学に関する研究を展開しています。ラマン分光は試料にレーザー光を照射した際の散乱光を観測することで分子や結晶などの振動スペクトルを測定する手法で、我々の研究ではラマン光学活性分光や低温ラマン分光などの最先端の技術を用いた点が特徴となっています。研究の主な対象は光受容タンパク質とよばれる色素タンパク質で、光センサーや光駆動イオンポンプとして働くものなどさまざまな機能を担ったものが知られています。我々はこれらのさまざまな光受容タンパク質について、活性部位の構造解析や反応中間体の構造決定を通して機能発現メカニズムの解明などに取り組んでいます。具体的な研究対象は活性中心である発色団として β -クマル酸をもつPhotoactive Yellow Proteinやレチナルをもつ微生物型ロドプシン、ピリンとよばれる開環テトラピロールを発色団とするシアノバクテリオクロムなどです。これらの研究のほとんどは国内外の研究者との共同研究で、主な共同研究先は米国オクラホマ州立大学や北海道大学、東京薬科大学、豊橋技術科学大学、松山大学などとなっています。

上記のような基礎研究と同時に、分光学を基盤とした新しい分析化学的手法の開発と応用研究にも取り組んでいます。具体的には農学部との共同研究を通して佐賀県が国内一の生産地である乾海苔について、その非破壊検査法の開発に取り組んでいます。また日本における磁器の発祥である有田焼に注目し、佐賀県窯業技術センターなどと共同して陶磁器の非破壊検査技術の開発にも取り組んでいます。（文責：海野 雅司）



乾海苔のラマンスペクトル測定の様子

物理学部門（旧物理科学科）

■高エネルギー物理学の研究

佐賀大学では「高エネルギー物理学の研究」に取り組んでいます。これは、高エネルギーの粒子加速器を使って衝突現象を観察し、素粒子物理学を実験的に探求する学問です。高エネルギー研究室と称し、杉山晃・房安貴弘の教員2名で運営しています。

高エネルギーの粒子加速器を使う理由の1つは、エネルギーが高いほど、極小の世界を測定でき、物質の根源である素粒子の世界を探求できるからです。もう1つは、未知の素粒子があるとすると、それは質量が非常に大きい可能性があるからです。アインシュタインの式 $E=mc^2$ により、大きな質量の素粒子を生み出すには、大きなエネルギーが必要です。

現代の素粒子物理学は、電子の仲間であるレプトンが6種類、原子核の構成要素の仲間であるクォークが6種類、力を媒介するゲージ粒子が4種類、そして素粒子に質量を与えるヒッグス粒子1種類の、計17種類から構成されます。ところが、これだけでは説明できない暗黒物質の存在等から、今の素粒子物理学は不完全であると考えられています。そのため、超対称性理論をはじめとし、多種多様な新しい理論が提唱されていますが、どのような理論が正しいかを決めるには、実験的検証を待たなくてはならないのです。

佐賀大学の高エネルギー研究室は、現在2つの高エネルギー実験に参加しています。1つは国際リニアコライダー（ILC）計画です。計画と称せられているように、まだ実現していない将来計画です。ジュネーブのLHC加速器におけるATLAS、CMSの両実験グループは、2012年にヒッグス粒子を発見した後、引き続きヒッグス粒子の性質測定を続けています。ですが、さらに圧倒的な精度でヒッグス粒子を測定するには、よりクリーンな環境であるILC計画の実現が待たれているのです。なぜ精度が必要か？精密測定をすることにより、理論からのわずかなズレを見つければ、それが今の理論の綻びであり、より正確な新理論を探るための、大きなヒントになるからなのです。

もう1つは、LHC加速器におけるALICE実験に、令和3年度から参加しています。この実験は、重イオン（鉛原子核）衝突現象の測定に特化されています。重イオン同士を高エネルギーで衝突させると、原子核の構成要素であるクォークやグルーオンが高密度状態となり、クォーク・グルーオンプラズマ（QGP）と呼ばれる物質相が極短時間、生成されます。QGPはビッグバン直後に存在していたと考えられており、その性質の解明は、初期宇宙における物質創生や、宇宙発展の解明に繋がる重要な役割を担っています。

これらの実験で佐賀大学は、衝突により生じた粒子線の測定を行う測定器の開発を主に実施しています。検出器技術だけでなく、電子回路やソフトウェアも扱いますから、理工分野を跨ぐ幅広い技術開発が求められ、時に企業との共同研究をする事もあります。（文責：房安 貴弘）

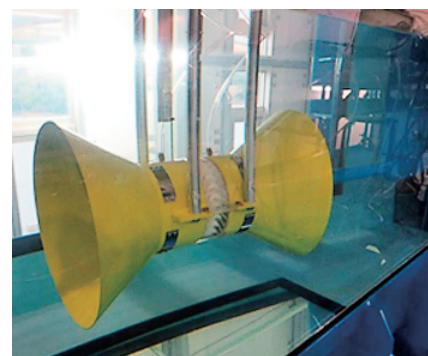
機械工学部門（旧機械システム工学科）

■ 潮流発電用の集流装置付きタービンの研究

潮流エネルギーは、月と太陽の引力に起因して規則正しく生じる潮の満ち引きにより生じる往復流なので、長期間にわたり正確に予測可能であり、また天候に左右されない安定的なエネルギー源といえます。潮流発電装置として、これまでにたくさんの研究開発がなされており、最も主要なエネルギー変換装置はタービンといえます。高出力向きとしては水平軸プロペラ形の羽根車を用いる方法が典型的であり、これを本研究の対象としていいます。また潮流エネルギーの大きさは潮流速度の3乗に比例するので集流が効果的であり、水平軸タービンにディフューザを取り付けた潮流タービンがこれまでに提案されています。

潮流発電用の水平軸タービンでは、潮流の向きの変転に対応するために、羽根車の向きを反転させる、ないしはタービン羽根ピッチ角の制御が行われることが一般的といえます。一方本研究では、双方向の流れに対して作動する往復流型タービンを採用して、装置の向きを固定したまま発電可能とすることで、発電装置の可動部や制御部を減らし、簡素化と高耐久化により初期費用と保守費用の低減化を企図したシステムを提案しています。これまでの研究経過としては、波力発電用に提案された往復流型の固定案内羽根付き衝動タービンを採用し、往復流対応の集流装置（添付図）付きタービンの性能をモデル実験と数値解析により調査しており、有効性が確認されているところです。

今後の研究としては、実用化に向けて出力の更なる向上が望まれていますので、往復流型反動タービンを用いた潮流タービンシステムについて検討することを予定しています。また集流装置流れのはく離低減も図ることにより、実用化に向けたタービン出力の向上を目指していきたいと思っております。（文責：木上 洋一）



潮流発電用の往復流型集流装置

電気電子工学部門（旧電気電子工学科）

■ 高周波半導体デバイスの高性能化を目指して

電子デバイス工学コースは2019年度の学部改組により新設され、電子工学に関する教育研究を行っています (http://www.ee.saga-u.ac.jp/fse_ee/index.html)。半導体は電子デバイスにとって不可欠な材料で、現在、シリコンがもっとも広く使われています。半導体電子デバイス研究室（大石研究室）では、シリコンで実現困難な分野への半導体デバイス適用を目指して研究しています (<http://www.ee.saga-u.ac.jp/sedlab/index.htm>)。特に高い周波数において大きな電力を効率的に取扱うことができる電子デバイスの材料として期待されるワイドバンドギャップ半導体について研究しています。

研究テーマのひとつが「材料・デバイスから見た回路モデル」です。動作周波数と異なる周波数で、交流信号を用いて回路パラメータを測定することが特長です。確立された測定系がないため、測定系を自作しました。測定結果とデバイス/回路シミュレーションを組み合わせることで、半導体中の不純物が与える影響をモデル化します。学生は測定、回路試作、シミュレーションと多彩なテーマを楽しみながら研究しています（写真）。このモデルにより正確な高周波特性が予測できるようになり、次世代の移動体通信設計などへの基礎的なデータとなります。当研究室では高周波動作の研究も実施しています。寄生容量を低減した酸化ガリウムダイオードを用いることでマイクロ波（1.4 GHz）を直流に変換できることを実験的に示しました（写真は試作回路）。これらの研究で得られた成果は英文雑誌へ投稿、国際会議、国内会議で発表しています。国内外の専門家と、時には英語で議論することは学生にとっては良い経験となり、社会で活躍するための糧となっています。

（文責：大石 敏之）



都市工学部門（旧都市工学科）

■建築設計の実践と研究教育による相乗的な建築創造を目指して

大学卒業以来一貫して大学に身を置いて建築設計を行う立場として心がけているのは、建築設計の実践と研究教育活動の両者がバランスよくフィードバックされながら新しい価値を伴うものでありたいと考えています。

主に大きく4つの研究テーマを柱に、実践においてはそれらが重畳しながら相乗的に繋がっています。

01/マルチフレーミング研究では、複数のフレーミングを重ね合わせた「絵画的手法」によって一つの空間に複数の視点が織り込まれた空間の可能性を、パノラマ写真や写真測量を用いた3Dモデリングによる建築家カルロ・スカルパの建築空間分析を通して模索しています。

02/アダプティブリユース研究では、文化財などの歴史的建造物を移築や用途変更して保存・活用を両立している建築の調査分析を行っています。建築設計〈富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー〉(2014)などの実践のほか、近年では「スポリア」(西洋建築において彫刻や円柱などの要素を別の建物に転用し再利用する行為)という概念を援用した建築設計〈TETUSIN DESIGN RE-USE OFFICE〉(2021)が、第4回日本建築設計学会賞・第15回日本建築学会 建築九州賞 作品賞などを受賞しました。

03/ランドフォームアーキテクチャー研究では、2つの異なる世界を繋げるエレメントである階段やスロープによって、ランドスケープと建築が連続したかたちとなるような地勢的建築のありかたを探っています。建築設計〈五ヶ山クロス ベース〉(2019)・〈御嶽山ビジターセンター〉(2022)などはそのようなコンセプトのもと実践したものです。

04/ライトインフラストラクチャー研究では、都市インフラとの非接続・グリッドへの依存度の低い環境にある山岳建築・島建築の在り方を調査分析・実践するもので、佐賀県唐津市の離島・高島の古民家改修による地域拠点整備(2020-)や物資運搬用木製パレットを元に考案された新材スクエアパネルを用いた可変的な建築〈HüTENT〉(2022)などのフィージビリティスタディを行っています。(文責:平瀬 有人)



リサーチマップ2022

実践的な教育研究も可能にした理工学部4号館 ~ラーニング・ループの教育環境を目指して~

理工学部4号館は、長らく土木工学科・建設工学科・都市工学科の校舎として使われてきましたが、築35年を経て老朽化が著しく、2020年度に改修工事が行われ、2021年3月に竣工しました。都市工学部門の教員が一致団結し、理工学部3号館、2号館別棟との関係を整理し、建築系教員が設計監修に関与しました。そして、単なる改修ではない機能強化として、ラーニング・ループ(学びの循環)の教育環境を目指した空間創出が実現しました。すなわち、これまでの教育環境は単に講義室や実験室があるものでしたが、その概念を超えて、以下の5つの設計コンセプトで改修されました。

- 01/校舎自体が「地域の縁側」(=社会との接点)となる
- 02/教育型授業から学び型授業(アクティブ・ラーニング)まで対応する
- 03/様々な体験の場をもつ部局共用全学交流スペースを1Fに配し、地域へ拓く
- 04/校舎の教材化(構造や設備のエレメントを意図的に露出)による教育研究拠点となる
- 05/実験的な改修計画により話題性を創出し、大学のブランディングに寄与する

4号館には主に建築系の研究室が入居することから、建築を学ぶ学生の生きた教材として活用しています。製図室やデザインスタジオなどはスケルトン天井とし、既存躯体(柱・スラブ・梁)の劣化補修部分や空調・電気設備配管などを可視化しました。外観についても、タイル浮きのある劣化部分をあえて素材の異なるタイルで補修することで、改修部分を可視化・再生しています。内部は、研究室同士の活動がガラスの窓越しに見えるようになっており、双方向の情報交換の場にもなっています。これらは、都市工学建築環境デザインコースの学生たちにとって、刺激ある学びの場になっていると確信しております。

「地域の縁側」の象徴的存在としては、菱実会のご支援を受けて、1階の部局共用交流スペースに、美術家・野老朝雄氏の作品「有田焼 瑠璃百段階(陰)(陽)2021」が設置されました。ここに、同窓会の方々のご支援に心から感謝申し上げます。

本建物は、佐賀大学の奥にあります。それゆえに、地域の縁側である本館と野老氏作品の存在を通じて、多くの方々に佐賀大学の奥にまで足を運んでいただき、近年の教育研究の進化を実感していただきたいと考えております。これを機会に、理工学部同窓生の方々にお会いできることを楽しみにしております。

(都市工学部門教授 三島 伸雄)



理工学部4号館1階デザインギャラリーの風景
©Yousuke Harigane

2021年度理工学部キャリアデザインセミナー

コロナ禍の中でしたが、2021年度の理工学部キャリアデザインセミナーは、ほとんどの部門（旧学科）で従来通り実施していただきました。2020年度は、三密を避けるため、さらに講師の移動負担もなくする必要がありましたので、一部を除き、ほとんどのセミナーはオンライン配信での実施でしたが、11月頃は新型コロナウイルス感染拡大が小康状態にありましたので、教室での対面式セミナーで実施していただきました。年が明ける頃には、新型コロナウイルスのオミクロン株が急激に感染拡大しはじめましたので、オンライン配信で実施していただきました。また、2021年度はほとんどのセミナーで、菱実会役員に視察参加させていただきました。大変な状況の中、講師を務めていただきました同窓生の皆様、またセミナーの手配や世話をしていただきました先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。

2021年度理工学部キャリアデザインセミナー実施一覧

部 門	実 施 日	講 師	担当教員
数 理	2022年1月18日(火) 13:00~14:30 オンラインで開催	白 谷 峻 氏 (数理科学科・2011年入学) 富国生命保険相互会社	梶木屋龍治先生
化 学	2022年1月19日(水) 15:00~17:00 オンラインで開催	小 川 航 平 氏 (機能物質化学科・2014年入学) 京セラ株式会社 藤 貴 弘 氏 (機能物質化学科・2011年入学) デンカ株式会社	山田泰教先生
物理学	2021年12月13日(月) 13:00~14:30 理工学部大学院棟302室 2021年12月15日(水) 14:40~16:10 理工学部大学院棟302室	丸 山 徹 氏 (物理科学科・2012年入学) ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社 大 藤 あゆみ 氏 (物理科学科・2010年入学) 株式会社KMTec	鄭 旭光先生
機械工学	2021年11月24日(水) 13:00~14:30 理工学部大学院棟401室	長 尾 淳 司 氏 (機械システム工学科・2005年入学) 本田技研工業株式会社 奥 野 拓 弥 氏 (機械システム工学科・2013年入学) 株式会社ミヨタ	松尾 繁先生
電気電子工学	2021年12月8日(水) 16:20~17:50 理工学部大学院棟401室	村 田 敬 洋 氏 (電気電子工学科・2001年入学) 株式会社SUMCO 辻 俊 一 氏 (電気電子工学科・2013年入学) パナソニック株式会社	田中 徹先生
都市工学	2021年12月15日(水) 15:00~17:30 理工学部3号館1階大セミナー室、 およびライブ配信 (後日ビデオ視聴可)	石 橋 靖 享 氏 (都市工学科・2003年入学) 鹿島建設株式会社 牟 田 亮 介 氏 (都市工学科・2003年入学) 松尾建設株式会社	日野剛徳先生

*情報部門では2021年度は開催されませんでした。

セミナーに参加してあらためて就職活動の意義を実感

キャリアデザインセミナーでは、同窓会員である講師が現在の仕事や日常生活の状況、そして今の職に就くまでに大学時代からどんなことを考え、どんな行動をしてきたのかなどについて、在学生向けの講話が毎年行われています。

菱実会活動の一環として、2021年12月13日と15日の物理学部門及び2022年1月19日の化学部門のそれぞれのセミナーに参加しました。講師は全4名（物理科学科卒2名、機能物質化学科卒2名、勤務先は全て民間企業で神奈川県、佐賀県、東京都、鹿児島県）で、セミナーは教室での対面講演とオンライン講演の2通りで行われました。教室での対面講演の参加者は約15~30名、オンラインでの聴講者は約110名でした。

講話内容で特に印象に残ったことは就職活動経験（就職の意義・就活中のこと・就活後のこと）、また学生時代にやれることやしておいた方が良いこと（インターンシップや就職説明会への積極的な参加、先生との相談、キャリアデザインセンターや同窓会の活用）、入社後のギャップなどでした。キャリアデザインセミナーは、これから就職活動する学生と人事担当の同窓会員にも非常に勉強になる内容だったと思います。（田中 稲穂）



物理学部門セミナーの様子

理工学部と菱実会との意見交換会

2021（R3）年11月18日(木)に菱の実会館多目的室において、理工学部と菱実会との意見交換会を開催しました。本会は2012（H24）年11月に開催して以来、今回で10回目の開催となります。今年度は各部門長の先生方にもご参加いただき、マスク着用等の感染対策を行ったうえで開催しました。出席者は、大学側が理工学部長、副学部長（3名）及び部門長（7名）の計11名で、同窓会側からは菱実会会長と副会長（3名）及び理事及び監事の計11名で、合計22名でした。

主催者を代表して、穂屋下茂菱実会会長が挨拶を行い、続いて、豊田一彦理工学部長のご挨拶がありました。最近の理工学部の状況については、対面授業ができるようになり日常がもどりつつあること、会議については引き続きオンライン会議を活用していること、先生方が作成したコンテンツをアフターコロナも活用していきたいことなどの報告がありました。また、理工学部の教員数の確保や女性教員の採用に苦慮しておられる現状について説明がありました。

出席者の紹介については、同窓会側出席者から順番に、卒業学科や担当業務等を含めた自己紹介を行いました。大学側出席者には、大学の講義や研究などに関わる現状報告を兼ねて自己紹介をお願いしました。キャリア支援について大学側から「OBの方でぜひ話をしたいという方がいればリストアップしてもらえるとありがたい」などの意見がありました。予定時間を過ぎて2時間ほどになりましたが、もう少し意見交換の時間がほしかったと思うほど話はずみ、とても有意義な意見交換会になりました。

（中西 美香）



菱実会会長の挨拶



理工学部長の挨拶

佐賀大学ホームカミングデー

2021年度の佐賀大学校友会主催のホームカミングデーは、2021年11月6日(土)、新型コロナ禍の中、オンラインで開催されました。10回目になるとのことでした。参加対象者は、同窓生、名誉教授等で、菱実会の出席者は5名でした。

兒玉浩明学長歓迎挨拶、川副操佐賀大学同窓会会長挨拶に続き、青木洋介医学部副学部長から、「新型コロナウイルス感染症の現状とこれから」についての講演がありました。さらに、学生支援事業報告と「海外派遣奨励金」受給者2名による報告がありました。なお、この時の模様は、佐賀大学同窓会Webサイトで視聴することができます。

<http://sadai.jp/alumni/dousoukai/information/202112131257/>

第11回目のホームカミングデーは、2022年11月5日(土)に予定されています。多数、ご参加下さい。

新型コロナウイルス感染拡大の状況により、予定は変更になることがあります。常に次の「お知らせ」をご覧ください。（佐賀大学ページTOP>附属・研究施設等>大学関連組織>校友会>お知らせ）

第11回佐賀大学ホームカミングデーのご案内：<https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp/hp/viewnews.html>



がんばっています

学び続けています…

佐賀県立有田工業高等学校
中西 美香 (数学・S63入)



佐賀県の県立高校教員として勤務しています。私は福岡県出身ですが、1988年に佐賀大学理工学部数学科に入学し、佐賀県の教員採用試験を受験しました。当時は高校数学の女性教員はまだ数少ない時代でした。初任者として赴任した学校は神埼農業高校（現在の神埼清明高校）で、その後、佐賀工業高校、高志館高校、佐賀商業高校、そして、今年度より有田工業高校に勤務しています。

教諭時代は、授業のほか、校務分掌では進路指導部の業務に長く携わりました。進路指導部では、様々な進路行事の企画をしたり、3年担任と連携して生徒の就職・進学受験指導をしたり、企業訪問をしたり、忙しい日々を過ごしながらも、やりがいを感じる事が多かったです。その後、2016年度に、佐賀大学大学院に新設された学校教育学研究科(教職大学院)に現職派遣で学ぶ機会をいただきました。理工学部数学科を卒業して25年が経って、今度は教育学部の大学院で学ぶことになったのですが、改めて、学びに年齢は関係ないことを実感しました。予測できない時代のなかで子供たちに「学びに向かう力」を育成する立場にある教員として、自らが学び続けること、答えのない問いに対して問い続けることの大切さに、改めて気付くことができました。修了後は、主幹教諭として勤務しており、授業で生徒と直接関わる時間が減り、学校運営に関わる業務や管理職の補助業務などを主に行っています。

私にとって、佐賀大学との関わりはとても深いものになっています。2019年度から3年間は教職大学院で非常勤講師(客員准教授)として週2日の兼務をしました。また、ここ数年は、数学の教員免許取得をめざす学生さんを対象とした理工学部での教育実習事前指導・事後指導の講師を引き受け、学校現場の現状や教職の魅力なども伝えていきます。以前と比べ、数学の教員を目指す女性も増えてきたと感じています。

ところで、近年、理工系学部で学ぶ女子学生の割合が少ないことや女性研究者が少ないことが話題になっています。高校でも女性管理職や理系教科の女性教員は少ないほうだと思いますが、私も理系女性の一人として、ジェンダーバイアス乗り越えて、私らしく頑張っていきたいと思っています。

学業・研究に励み、探求心を育む

先進健康科学研究科生体医工学コース 1年
徳田 隼人 (電電・H30入)

今年3月に佐賀大学理工学部電気電子工学科を卒業し、4月には同大学大学院の先進健康科学研究科生体医工学コースへ入学いたしました。学部生時代の学業成績に加え、卒業研究への積極性と熱心さを高く評価していただき理工学部同窓会長賞という大変栄誉ある賞を頂きました。また、賞を頂いた後も気を緩めることなく、むしろこれまで以上の成果を残せるように日々大学院での勉強と研究に力の限りを尽くしております。

私の現在所属しているシステム制御研究室では主に、プラントシステム、メカトロシステム、医用システムの3分野について研究を行っており、これらの諸問題をシステム制御で解決することを目指しております。

その中で私が携わっているのはメカトロシステム分野で、昨年の卒業研究は、二輪駆動型移動ロボットの静的障害物の回避システムについて私なりに創意工夫を凝らし課題の解決を果たしました。まだまだ詰めが甘く、誇れるような成果ではございませんが、この1年で課題解決能力や論理的思考力などが身に付きました。ここまで成長できたのも自分ひとりの力ではなく、ひとえに私の担当の教授やメンバーによるものが大きいので感謝してもしきれません。また、今年は動的障害物の回避システムについて研究を行おうと思っております。去年と比べ、対象となる障害物が動くかどうかの違いではありますが、この静的か動的かの違いだけでシステムの内容が大きく変わってきます。この研究は活発に行われており、専門知識を多数取り扱うことから一筋縄でいくようなものではありませんが、そこにやりがいと探求心をひしひしと感じております。研究に没頭し自己研鑽できる機会というのは、学生ならではの特権であると考えているので、取りこぼしの無いように最後まで駆け抜けたいと思っております。

G. システム制御研究室



海洋温度差発電プラントの制御、遠隔監視・遠隔操作



移動ロボットの制御



重度運動障害者のためのコミュニケーションツールの開発

2022年度菱実会総会と第1回菱実会クラス代表会議を開催

菱実会では、同窓生ネットワークを強化するために、2022年度より学部生部会及び卒業生部会を発足して、少しでも同窓生同士の繋がりを持つ機会を増やしていくことになりました。現在、学部生部会及び卒業生部会の委員を募りつつある段階ですが、2022年度より「菱実会クラス代表会議」を開催することになりました。次の要領で開催致します。是非、ご参加下さい。

2022年度の菱実会総会

期日：2022年9月17日(土) 13:30～14:00
場所：佐賀大学菱の実会館多目的室

第1回菱実会クラス代表会議

期日：2022年9月17日(土) 15:00～17:10
場所：佐賀大学理工学部6号館1階
受付：14:30～15:30

菱実会クラス代表会議プログラム

主催者代表挨拶
学長挨拶
理工学部長挨拶
クラス委員代表報告
記念講演
お楽しみ会

- * 新型コロナ禍の中ではありますので三密を避け、全員マスク着用にてご参加下さい。
- * 総会後の飲食を伴う懇親会はありません。
- * 第1回菱実会クラス代表会議に先立ち、理工学部4号館に設置された野老朝雄氏の有田焼陶板タイル作品、改修建物の見学会を企画中です。
- * 会議参加には、事前の参加申込が必要です。
- * 申込期間：2022年7月1日～8月20日
- * 申込先：菱実会クラス代表会議出欠フォーム <https://www.sudream.org/forms/henko-4/>
- * なお、スケジュールは変更になることがあります。新型コロナウイルス感染拡大のため教室等での集会が困難になった場合には、総会はWebサイト上での決議とし、菱実会クラス代表会議はアーカイブ視聴になります。ご承知下さい。
- * 不明の点がありましたら、同窓会事務局までお問合せ下さい。



第12期菱実会役員 (2022.4～2024.3)

(2022年4月1日)

役職	担当	氏名	学科・入学	勤務先	佐大同窓会役職・担当
会長		穂屋下 茂	機械・S45		副会長
副会長	庶務	牧瀬 稔子	数学・S55	佐賀市開成老人福祉センター	理事・庶務部
理事	庶務	津留 保生	電気・S61	津留公認会計士事務所長	
理事	庶務	古川 裕紀	生機・H4	佐賀県議員	
副会長	会報	小玉 純士	建設・S57	ダン技術設計(株)	理事・会報発行部
理事	会報	田中 高行	電子・S57	佐賀大学	
理事	会報	岩部 敦也	電気・H2	(株)戸上電機製作所	
理事	会報	瀧上 貴由樹	都市・H12	佐賀大学	
副会長	組織強化	島 公二武	機械・S46	自営業	理事・支部強化部
理事	組織強化	樋口 幸弘	土木・S49	松尾建設(株)	
理事	組織強化	大島 史洋	機械・H3	佐賀大学	
理事	組織強化	山城 佑太	機械・H28	佐賀大学院(博後)・(株)山城機巧社長	
副会長	情報管理	山中 輝樹	情報・H2	(株)佐賀電算センター	理事・情報管理部長
理事	情報管理	池上 康之	生機・S57	佐賀大学	
理事	情報管理	大谷 誠	情報・H6	佐賀大学	理事・情報管理部
理事	情報管理	森山 裕鷹	知能・H27	佐賀大学院(博後)・(株)SA-GA社長	
副会長	学生支援	山口 智啓	生機・S48		理事・学生支援部
理事	学生支援	田中 稲穂	化学・S61	(株)AIT物産 代表取締役	
理事	学生支援	中西 美香	数学・S63	佐賀県立有田工業高等学校	
理事	学生支援	香月 俊彦	機械・H22	(株)ミゾタ	
監事		中島 道夫	化学・S43		監事
監事		椿 忠彦	物理・S48	龍谷中学校・高等学校	
(顧問)		秋永 正幸	機械・S41		

菱実会について思うこと

松尾建設株式会社

樋口 幸弘 (土木・S49入)



2017年から菱実会理事を務めています1978年理工学部土木工学科卒業の樋口幸弘と申します。大学卒業後は松尾建設(株) (本社：佐賀)で土木工事現場技術者と勤務し、2004年より同社の安全環境管理室に異動し、安全環境管理室長を13年間、務めています。

同窓会理事には、同じ学科出身で理事を務められている方からご推薦いただき、すでに還暦も過ぎ、大学にはこれまで色々とお世話になったことから、これから何らかの形で恩返しすべき年齢になったのかと思い、お手伝いすることに決めました。その時は皆さんも同様だと思いますが、佐賀大学全体の同窓会組織のことは認識していました。しかしながら理工学部にも同窓会組織があることは、全く認識していない状況でした。

現在、務めている松尾建設(株)は地元佐賀に本社を置く、従業員数約650人の中堅ゼネコンで、佐賀に本社があるためか、約60名が佐賀大学の卒業生、その中の約40名が理工学部の卒業生がしています。社内では理工学部同窓生としての活動はありませんが、佐賀大学卒業全体として、コロナ前、毎年1回、新入社員歓迎を兼ねた懇親会を行う程度の活動を行っています。私も40数年前、新入社員だったころ、佐賀大学の先輩より色々とお世話いただき、大変ありがたかったことを思い出します。

これから菱実会役員として役所や民間企業組織に働きかけ、理工学部同窓会「菱実会」をたくさんの皆様に知っていただき、同窓生の皆さんのためになる組織にしていきたいと思えます。

菱実会の今後の発展に向けて

佐賀大学情報基盤センター

大谷 誠 (情報・H6入、生産科学専攻・H15修了)



本年度より菱実会の理事(情報管理担当)を務めることになりました大谷誠と申します。1994年に情報科学科に入学し、大学院を含め9年間佐賀大学に在学していました。大学院修了後の2003年には佐賀大学の海洋エネルギー研究センターの研究員、2004年からは学術情報処理センター(現：総合情報基盤センター)の教員として働いております。よって28年もの間、佐賀大学と関わっていますが、長いようであつという間だったなどの思いです。学生時代は次世代インターネット(IPv6)やネットワーク利用認証などに関する研究を行っていました。現在の職場である総合情報基盤センターでは、学生時代の研究とも関連するネットワークの管理運用やセキュリティに関する業務や研究に引き続き取り組むことができ、非常に感慨深いものを感じます。近年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、教育活動や研究活動においてさまざまところで急速なデジタル・トランスフォーメーション(DX)化が求められており、佐賀大学においてもこのような取り組みを行っています。このような経験を生かし、菱実会の今後の発展に向けて微力ながら貢献させていきたいと思っています。今後、皆様のご指導ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

菱実会の動き

2021
4月

2022
3月

2021.4.1 *菱実会 会計監査

- 1 ○佐賀大学同窓会 会計監査
- 2 佐賀大学令和3年度入学式
- 2 *理工学部在学生表彰(理工学部長賞)(受賞者24名)
- 7 理工学部「有田焼陶寄贈内覧会」
- 8 ○佐賀大学同窓会「第1回代表役員会」
- 15 ○佐賀大学同窓会「春期定例役員会」
- 20 佐賀大学で新型コロナウイルス感染のクラスター発生
- 26 ○佐賀大学同窓会「会報発行部会編集委員会」
- 28 *「菱の実 第23号」編集会議
○佐賀大学同窓会「臨時会長会」
- 5.6 *菱実会会長と理工学部長との打合せ
- 27 *第1回菱実会役員会
- 6.10 ○佐賀大学同窓会「第2回代表役員会」
- 15 *第2回菱実会役員会
- 28 ○佐賀大学同窓会「学生支援部会」
- 7.1 *「菱の実 第23号」発行
- 15 *菱実会学生支援担当部会会議
- 19 *菱実会情報管理担当部会会議
- 10.4 ○佐賀大学同窓会「庶務部会」
- 14 ○佐賀大学同窓会「第3回代表役員会」
- 20 ○キャリアデザイン講座(有朋会担当)
- 21 ○佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会
- 27 ○キャリアデザイン講座(芸術地域デザイン学部同窓会担当)
- 27 ○佐賀大学同窓会「会報発行編集会議」
- 11.4 *第3回菱実会役員会
- 6 ○佐賀大学ホームカミングデー(オンラインで開催)
- 18 *理工学部と菱実会との意見交換会
- 24 ○佐賀大学同窓会「支部強化部会」
- 24 *理工学部キャリアデザインセミナー(機械工学部門)

- 12.1 ○キャリアデザイン講座(楠葉同窓会担当)
- 2 *第1回菱実会会長・副会長会議
- 8 *理工学部キャリアデザインセミナー(電気電子工学部門)
- 9 ○佐賀大学同窓会「第4回代表役員会」
- 11 理工学部「野老朝雄氏作品オープニングセレモニー」
- 13 *理工学部キャリアデザインセミナー(物理学部門)
- 15 ○キャリアデザイン講座(農学部同窓会担当)
- 15 *理工学部キャリアデザインセミナー(都市工学部門)
- 22 ○キャリアデザイン講座(楠葉同窓会担当)
- 22 *第4回菱実会役員会
- *第6回菱実会賞の表彰(受賞者2名)
- 2022.1.1 ○佐賀大学同窓会会報「楠の葉 No.36号」発行
- 12 ○キャリアデザイン講座(菱実会担当)
- 13 *菱実会OG・OB活躍PR動画作成プロジェクト集会
- 15 令和4年度大学入学共通テスト 佐賀大学本庄・鍋島キャンパス
- 18 ○佐賀大学同窓会「情報管理部会」
- 18 *理工学部キャリアデザインセミナー(数理部門)
- 19 *理工学部キャリアデザインセミナー(化学部門)
- 19 ○キャリアデザイン講座(農学部同窓会担当)
- 26 ○キャリアデザイン講座 佐賀大学同窓会の紹介
- 27 *第2回菱実会会長・副会長会議
- 2.10 ○佐賀大学同窓会「第5回代表役員会」
- 25 佐賀大学(前期日程)入学試験
- 3.1 *菱実会会長と理工学部長との打合せ
- 2 ○佐賀大学同窓会「臨時会長会」
- 12 佐賀大学(後期日程)入学試験
- 17 *第6回菱実会役員会
- *第2回理工学部同窓会長賞の表彰(受賞者7名)
- 23 令和3年度佐賀大学学位授与式
- 23 ○佐賀大学同窓会長賞の表彰(受賞者5名)
- 28 校友会国際交流奨励金審査会への陪席
- *「菱実会運営デジタル化会議」は42回開催した

(*印は菱実会(理工学部同窓会)、○印は佐賀大学同窓会、無印は佐賀大学/理工学部)

お知らせ

○2022年度菱実会賞の募集

菱実会賞は、佐賀大学理工学部に入学者及び卒業生で、かつ同窓会会費を納入した正会員で、社会活動、課外活動、学術研究活動等において、成果や評価が顕著であると認められた者を表彰するための菱実会(理工学部同窓会)の取り組みです。対象者は、佐賀大学理工学部に入学者及び卒業生で、かつ同窓会会費を納入している正会員です。募集は、3つの部門(学部生、大学院生、及び卒業後実社会で活動している社会人)から行います。多くの同窓生の積極的な応募をお待ちしております。詳しくは、第7回(2022年度)菱実会賞募集(<http://sadai.jp/alumni/ryoujitsukai/information/202206092558/>)をご覧ください。



○理工学部キャリアデザインセミナー講師及び会報等への寄稿

- 1) 菱実会では、理工学部の先生方の協力を得て、理工学部キャリアデザインセミナーを学部生及び大学院生に提供しています。卒業生の職場を紹介し、学生に仕事意欲を持たせるのも目的の1つです。セミナーの講師を引き受けていただける方は、菱実会事務局までお知らせ下さい。
- 2) 菱実会会報「菱の実」では、同窓生の近況報告、職場紹介、学生への期待、大学への提言など掲載しております。会報等に投稿してみたい方は、菱実会事務局までお知らせ下さい。

お問い合わせ先

菱実会事務局 は佐賀大学同窓会内にあります

TEL: 0952-23-1253 FAX: 0952-25-5700

e-mail: dousoukai@sadai.jp



*住所変更や菱実会へのご要望がある場合には、「住所変更等の入力フォーム(菱実会専用)」をご利用下さい。菱実会 Web サイトの「住所変更・会費納入」からもリンクしております。<https://www.sudream.org/forms/ryoujitsukai/henkou/>